三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

ブル・トレ問題 こんな卑劣な『裏切り取り引き』が許せるか！

臨調「緊急措置11項目」攻撃の全てを受け入れる約束をとり交した動労「本部」革マル

6月30日の深夜、突如として「ブル・トレ旅費を返済する」と裏切り的方針転換をして以降の動労「本部」の転向ぶりは、実に驚くべきものである。全国の仲間の怒りの弾劾の前につぎつぎと明るみに出されてきた動労「本部」革マル（その直接責任者は松崎明・東京地本委員長）の驚くべき腐敗と裏切りの実態は、断じて許すことのできない歴史的な階級的裏切りである。怒りをこめ粉砕・一掃せねばならない。

裏切りの経緯

「裏切り取り引き」は、誰によってどのように行われたのか。

①5月までゆきづまっていた「返済」問題は、6月に入り、対動労（松崎）接触が強められる中で急進展しはじめた。当局は「裁判」のドウカツを加えつつ、後述する「アメ」の取り引きを出す。遂に6月30日深夜の談合で、動労「本部」（松崎）が全面屈服し、後述する「取り引き」をもって「返済に同意」し、四組合共闘はもちろん、動労自身の執行確認をも勝手にひっくり返して当局と合意し、東京地本組合員に指令した。

②このための談合は、自民党代議士＝三塚博、加藤六月、および国鉄本社職員局長＝太田知行であり、動労「本部」は、革マル指導者＝松崎明が終始行った。銀座・六本木の高級クラブ・料亭やゴルフ招待の中で数回にわたりもたれた。

③三塚博とは、「ヤミ・カラ・国賊」キャンペーンの口火を切り、攻撃の最先頭に立ってきた自民党国鉄再建小委員長、また教科書問題小の委員長をも兼任する反動の権頭。

加藤六月とは、200万円収賄しながら居直っている、ロッキード「灰色高官」。自民党運輸族の金権ボス。〝太田労政〟の名で知られる国鉄本社職員局長＝太田知行とは、これまでの労務政策は協調主義的すぎるとして前職員局長が更迭されたあと「労使関係の反動的逆転」を最大眼目に、本年四月に就任してきた反動的人物、である。

日〝弁明〟は、ペテン・ウソ

『動力車新聞』（7月2日号）「主張」で、裏切りの〝弁明〟の一つに彼らが挙げている「19の桟敷区に攻撃をとどめ、他の職場・問題への波及を防ぐために、ブルトレで一歩後退したのだ」というのは、組合員を愚ろうする大ウソである。なぜなら、自民党も国鉄当局自身もはっきり公言しているように「ブル・トレでの強行突破こそ国鉄再建（＝国鉄労働運動解体―御用化）への最重要の突破口」と、最初から位置づけられたものだからである。この〝実験・戦争〟を通して、動労「本部」革マルの全面屈服姿勢と、又、工サをちらつかせればいとも簡単に他労組や自らの組合員など裏切って、革マル派のセクト的利害のみで当局の足もとに身をすり寄せる忠犬ぶりを、しっかりと見とどけた自民党と当局は、安心して、いよいよ本格的な全面的な攻撃へと無制限に拡大波及させてくることは火を見るよりも明らかな事である。現に、当局は、7月19日には、ついにこの間の攻撃の最大眼目である「現場協議制度の全面破壊」＝労働組合無視の一方的労務政策強行方式へと直ちに攻撃を拡大してきているではないか。

日革マルは何と「取り引き」したのか

松崎が決断して、自民党・当局に全面屈服し約束したものは（実は「ブルトレ一件」にとどまらず）「臨調答申の緊急措置11項目の攻撃を全部受け入れる」という事であり、「ブルトレでの方針転換」は、その忠勤の最初の身の証（あか）しである。

そして、その「見返り」として当局が彼らに約束したことは、「今後25万人体制下、あるいは民営・分割下の職場においては、（国労や動労千葉のような組合は叩いて、抑えこみ）鉄労と動労「本部」（松崎一派）に主導権をとらせる新（御用化）労務政策を確立していく」という、延命＝だきこみ＝利用の約束が支配者の側から示され、この一点に松崎一派が小おどりして喜びついた、という事である。その「約束」は直ちに発動され、ケイ、革マル長谷川・海宝の千葉送り込み、「国労敵視の差別労政」として進行している。徹底断罪と一掃を。

三塚自民党国鉄再建小委員長らや、太田職員局長らとの松崎の酒席談合は、マスコミでも話題になるほど頻ばんだった

ケイ新聞　社会　昭和57年7月14日　水曜日

……

馬渡副総裁も、全国の管理局長を集めて「ブルトレのヤミ手当さえ回収できなくて、どうして国鉄の再建ができるか。やる気のない学士（大卒・定期採用の幹部）は国鉄を去れ」とハッパをかけた。これに対し組合側は、鉄労を除く三組合（国労、動労、全動労）がいち早く、返納拒否を決める。

……

だが「ここでスジを曲げれば国鉄再建のチャンスは失われる」との職員局の主張が通った。決断は五月二十五日前後だった。

期限の同月三十一日までに返納に応じたのは、該当職員の一割に過ぎなかった。六月十五日、当局は「六月末までに返納せよ」という内容証明付きの督促状を郵送する。

返納拒否の国労、動労、全動労の間に動揺が生じた。まず、動労が非公式にある人物を介して職員局と接触したあと、返納に応じることに同意した。

……

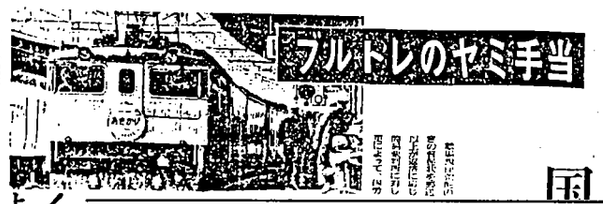
ブルートレインのヤミ手当返納をめぐる経過は、国鉄が試みた再建への一つの実験戦争でもあると思う。

このあと当局はさらに、悪名高い現協（現場協議制度）の改正を組合側に申し入れる。あとに引けない最後の戦争が始まっているのだ。

……

ケイ新聞　社会　7/3

動労も返済に同意



全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！

日刊 動労千葉

82.8.6

No. 1115

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）

（鉄電）二九三五～六・（公衆）0472（23）七二〇七